

平成 29 年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	平成 29 年 11 月 29 日（水）13:30～15:30
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	尾澤厚子、菊池房江、佐々木繁美、館澤敏子、千葉陽介、藤代伸子、藤村幸雄（以上 7 名）
4 欠 席 委 員	石塚庸子、菅しのぶ、佐々木和哉、佐藤和男、佐藤 優、そのだつくし、三好なお子（以上 7 名）
5（県側出席者） 生涯学習文化財課	横沢知幸主任主査、菊池央主査
6 文化振興事業団	坂本誠一事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、小平浩副館長、田中芳樹総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明主任専門学芸員、田村敏之主任専門学芸調査員、関成雄主任主査

1 開 会	事務局より、委員 14 名のうち 7 名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第 9 条第 2 項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨が報告された。
2 委 員 紹 介	（出席者名簿により自己紹介）
3 職 員 紹 介	（出席者名簿により出席職員を紹介）
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。（挨拶内容省略）
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第 8 条第 2 項の規定により、議長は会長が務めることになっていることから、以後の議事は、佐々木会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 ア 説明事項 【質疑応答】	「平成 28 年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について」（資料 1）事務局から資料 1 により説明を行った。（説明内容省略）
◆ 菊池委員	館と館との割引制度があればよい。近隣の施設との連携はどうか。
◆ 美術館	全国美術館に調査したところ、相互割引の例は多く見られた。当館においても、今年度は萬展の開催時に、花巻市の萬鐵五郎記念美術館と相互割引を行った。近隣館とは、近隣施設とのネットワーク組織「もりとびあねっと」を通じてスタンプラリーなどを行っている。
◆ 尾澤委員	広報物のターゲットの話に関して、エリック・カール展の新聞広報記事を見ると、親子連れが楽しんでいる様子が掲載されている。親子で行ってもいいんだというイメージが伝わりやすい。「美術館は敷居が高いところ」というイメージの払拭につながる。
◆ 藤村委員	自分は「もりとびあねっと」に携わっており、これを通じて情報発信を行っている。この辺りを訪ねてくる人が、すぐ近くまで来ているのに、案内板がないので目的の施設に辿り着けない来場者が多い。
◆ 佐々木委員長	マリオスから歩いてくると、橋を渡ったところで案内板はあるものの、見つけにくいし、見づらいので、そういう苦情が多いのは確かだ。

◆ 藤代委員	友の会ボランティアとして来館者に接しているが、依然として入り口が分かりにくいという声を聞く。案内板に目立つ工夫が欲しい。花森展では県外客が多かったように思う。建物の魅力も大きい。そんな中で、敷地内にある修景池に水がないことが残念であり、復活を望む。ラウンジに座って、水と緑を一度に眺められるのは素晴らしい。
◆ 美術館	公園から美術館への入り口の表示の件は我々も承知している。予算ありきの話だが、改善していきたい。公園駐車場については盛岡市と協議して適切に管理していく。修景池は、漏水があって水を張れない状況。修繕には多額の予算を要する。優先順位をつけて県に要望していきたい。
◆ 尾澤委員	美術館の入り口表示は、お金の掛かる方法ばかりでなくとも、既存の地図データに手を加えて分かりやすくするなど、方法はあると思う。
◆ 館澤委員	やれるところからやってみてはどうか。ネットに頼れない高齢者は、やはり案内地図を頼りにする。例えば、盛岡駅には分かりやすい地図や案内板が欲しいところである。なおかつ、大きな字で視認しやすいことも重要である。 地方の者には、出前のイベントは有難い。美術館が身近に感じられる。
◆ 菊池委員	道路や公園内の案内板は近隣の施設が合同で予算を出し合って、まとめて設置してはどうか。また、エリック・カール展初日に来館した折、高校生が大勢来場して展覧会を楽しそうに観覧している姿を見た。良い企画であればこそ。高校生対象に何か仕掛けたのか。
◆ 美術館	普段から学校には展覧会のラインナップを情報提供している。秋は学校団体利用が多い時期であり、エリック・カール展では幼稚園の来場も多く見受けられる。
◆ 尾澤委員	案内マップ的なものは、修学旅行などの用途に活用できるよう、「もりとびあねっと」の中で、共同で作成してはどうか。
◆ 藤村委員	中央公園は自然資源も豊かである。雫石川周辺の自然が豊かなので、それを活かして子ども科学館で自然観察会を年に数回行っている。「もりおか星まつり」というのもやっている。都市でこれだけ星がきれいに見える場所は中々ない。そうした自然資源が観光資源になり、経済効果をもたらすようになればよい。
イ 説明事項 【質疑応答】	「平成 29 年度事業実施状況について」（資料 2） 事務局から資料 2 により説明を行った。（説明内容省略） 質問等なし
ウ 説明事項 【質疑応答】	「平成 30 年度事業実施計画(案)について」（資料 3）及び「平成 30 年度企画展概要(案)について」（資料 4） 事務局から資料 3 及び資料 4 により説明を行った。（説明内容省略） 質問等なし
(2) 協議事項 ア 説明事項 【質疑応答】 ◆ 美術館	「岩手県立美術館の運営について」事務局から情報提供 実行委員会について情報提供しておきたい。観覧者数の安定的確保を見込んで、マスコミとの経費折半により展覧会を開催するというものである。平成 28 年度の野口久光展は岩手日報社、めんこいテレビとの実行委員会を組んで、試行的に開催し、今年度はその経験に基づいて、問題点を分析して本格導入したものであり、結果的に 4 本について実施しているものである。野口久光展では観覧者の満足度は高いものの、観覧者数が伸びず赤字決算となった。黒字決算を目指していたが、川端康成展も赤字決算に終わった。花森安治展ではテレビ岩手の努力により黒字を計上できた。現在、平成 30 年度の予算要求中であるが、マスコミは黒字決算が確かなものでないと共催に難色を示す。平成 30 年度は 1、2 本を実行委員会で開催したいところである。

◆ 千葉委員	企画展ラインナップはどのように決められるのか。
◆ 美術館	新聞社や企画会社、他美術館等から展覧会企画について、情報提供やオファーが寄せられる。また、通常は岩手の作家を取り上げた自主企画展も作り込んでいる。展覧会の内容、開催時期、経費、ラインナップのバランスを見ながら、館長以下で協議し、選択して決定している。数年かかることもある。
◆ 千葉委員	<p>実行委員会に関して。岩手日報の学芸部の運営側としては、紙面をどう展開するかということを考える。花森安治展、エリック・カール展は、純然たるアートというよりは、親しみやすいので展開する面も変わってくる。川端康成展はアート色が強かった。今年度の展覧会ラインナップは、「文化」と「暮らし」の分野でバランスよく展開できた年だったのかと思われる。</p> <p>Twitter の活用について、若い世代は Twitter や LINE を頻繁に活用している。先ほど来、話題になっている美術館へのアクセスについても、即効性のあるやり方があるはずだ。美術館の HP や SNS で、くだけたブログなど、柔らかいバランスの取れたコンテンツがあると、若年層が親しみを持ってきて、来館促進につながるのではないかな。</p>
◆ 菊池委員	常設展の漆の特集で、古関六平氏の作品と併せて、勝正弘氏の作品が展示されているのはよかった。勝正弘氏の作品を展示したギャラリーが 9 月に出身地の葛巻町にオープンした。漆の材料、技法について日本工芸界を牽引した人なので、是非、作家本人が元気なうちにお話を聞いておくべき。埼玉県在住で 89 歳になられる。
◆ 佐々木委員長	勝正弘さんのような人の業績がもっと知られるように、美術館にも是非、調査研究をお願いしたい。
◆ 館澤委員	今の高校生は広範囲に興味を持っているようなので、春先のウキウキ感の季節に好奇心旺盛な年代を対象とした美術館まつりのようなイベントも必要ではないかと思う。
◆ 尾澤委員	平成 30 年度の企画展を見ると、前半は難しい展覧会が続くが、スタンプラリーの導入など、子どもを対象としたイベント等の開催を計画してほしい。
◆ 藤代委員	子どもたちが沢山来られるようなイベントを年間一つは開催してほしい。また、観覧料無料の日を単発でも良いから実施するなど、一度でも美術館に来る機会を与えてほしい。さらに、高齢者対応として言われているのは、講演会などでも聞き取りにくいという話をよく聞くので、音声・音量にも留意してほしい。
◆ 美術館	アンケート調査から観覧者を年代別に見ると、10 代・20 代が非常に少ない。30 代から 60 代が多く、かつリピーターが多い。美術館に若い年代の目を向けさせることができるかということが課題となっている。また、その若い世代が美術館に来ない理由は、「お金がない・時間がない・きっかけがない」ということのようなのである。したがって、きっかけを作ってあげればと考えている。子どもは親と来ると思うので、ファミリー向けの展覧会の開催は常に考えている。
◆ 菊池委員	その件については、親子パスポートの導入が有効的であると考えている。
(3) その他	「その他」について (特になし)
(4) 閉会 ◆ 佐々木会長	以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)